

第10回兔原祭開催!!

5月20日(金)、21日(土)に第10回兔原祭が開催されました。21日(土)は3年ぶりとなる一般公開も行われ、多くの来場者で賑わいました。中等10回生を中心に、これまでの兔原祭の文化を継承しつつ、新たな魅力も詰まった素晴らしい行事になっていました。



生徒主体の企画が盛りだくさん!



第10回の節目として、オープニングではこれまでの9回の兔原祭を振り返る動画が上映されました。形成されつつある伝統を大切にするとともに、実行委員を中心に多くの生徒の思いが詰まった兔原祭に、新たな歴史が刻まれました。

今回の兔原祭において最も印象的だったのは、どの企画も先生が付き添っている様子が見られず、すべて生徒が主体となって行われていることでした。教室での展示やアリーナでの公演から、行事全体の運営に至るまで、生徒自らがアイデアを持ち寄り、工夫を重ねている様子が窺えました。ある先生のお話によると、「我々(教職員)に兔原祭に関する情報が下りてくるのは、実行委員が各クラスで生徒に連絡するとき(笑)」だったそうで、随所で生徒が中心となって企画、運営されていたようです。回を重ねるごとに成長し、より魅力的な学校行事を運営する後輩を非常に頼もしく感じました。

お話によると、「我々(教職員)に兔原祭に関する情報が下りてくるのは、実行委員が各クラスで生徒に連絡するとき(笑)」だったそうで、随所で生徒が中心となって企画、運営されていたようです。回を重ねるごとに成長し、より魅力的な学校行事を運営する後輩を非常に頼もしく感じました。

一般来場者の予約枠、短時間で満席に!

今回は新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、一般来場者は予約制で午前、午後各1000名の枠を設けて公開されました。オンラインで行われた来場予約は短時間で満席となり、母校の注目度の高さを示す結果となりました。学校行事が一般公開されるのは3年ぶりであったため、当日は将来入学を考えている親子の姿が多く見られました。



多く見られました。

また、近隣の高校生も見学に訪れていました。黎明期には他校を参考にして企画していた兔原祭が、他校から参考にしてもらえる行事に成長したことをとても嬉しく、また誇りに感じました。

100名近い卒業生も来場しました。特に、在校時に中心となるべき学年で兔原祭が中止になってしまった8回生が多く訪れ、後輩の勇姿に胸を躍らせ、楽しい時間を過ごしました。



第10回兔原祭を訪れて

お久しぶりです。あるいは初めまして。第8回兔原祭で実行委員長を務めていた清水です。先日、進学先である高知から兵庫へ帰りまして、3年ぶりに外部来場客が戻ってきた第10回兔原祭を訪れたので感想を共有させて頂こうと思います。

第10回兔原祭を一言で表すと、“飛躍”がぴったりだと感じました。第10回兔原祭は間違いなく兔原祭の歴史において大きなターニングポイントとなったでしょう。運営能力も、外部公開の経験が皆無だとは思えないくらい凄まじく、また自由度が増したことで、企画の質も格段に向上

していました。具体的には、ICTが活用されたり、コーヒークップを实

施している企画があったり、本格的な野外ステージがあったりと、全体的に華やかで、非常に楽しい兔原祭でした。これらは、感染症の感染拡大による“断絶”によって前例に囚われないチャレンジがしやすくなった結果だと私は考えていました。しかし、エンディングでは明確に歴代の兔原祭へのリスペクトが演出されており、この新しい挑戦には断絶だけでなく、歴史も重要だったのだと気



8回生 清水颯夏さん

づかされました。また、先輩方から受け継いだものを、そこに私たちの挑戦を加えて、ちゃんと後輩へ遺せているのだと安堵しました。歴史を尊重しつつ、それらを土台に高く飛んだという意味で“飛躍”の年でした。

羨ましいくらいに優秀で、さらにそんな10回生の元で経験を積んだ11回生にも大きく期待が寄せられます。今年度、時間や距離の関係で訪れることができなかつた方も、是非来年訪れてみてください。きっとそこにはまた一段と進化した兔原祭の姿があるでしょう。



兔原祭を終えて



第10回兔原祭で実行委員長を務めさせていただいた、平野舜介と申します。本校には様々な行事がありますが、兔原祭はその中でも特に注目度の高い行事であると思っています。「生徒主体」という本校の校風の源流であり、その校風が最も反映されている行事であるからです。本校の文化祭にあたる行事は今年度で10回目を迎えました。1年間、先輩方に残していただいたたくさんの資料・記録を拝見し、この10年間で行われた様々な試みを参考にさせていただきました。と同時に、その10年間の重みというのを感じていましたが、無事兔原祭を終えることができ、自分もその歴史の一部として兔原祭に関われたことを、とても光栄に思っています。兔原祭はそうやって、回生や時代を超えなが

ら繋がれていくものだと思います。これからの兔原祭に繋がれていく、兔原祭の10年の歴史に思いをはせて、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

シェーファーアヴィ幸樹選手が中等10回生を試合に招待

4月3日（日）、Bリーグ「シーホース三河」のシェーファーアヴィ幸樹選手が、中等10回生3名を試合の観戦に招待しました。

シェーファーアヴィ幸樹選手は、母校に中等2回生として4年間在籍しました。現在はシーホース三河に所属し、シーズン全試合に先発出場、パワーフォワード（PF）／センター（C）として活躍しています。日本代表にも選出されており、昨年は東京オリンピックに出場しました。

中等10回生の小川千遥さん、山本望実さん、脇阪紀恵さんの3名は、Bリーグを題材に”Correlation between Winning Percentage in Home Stadium and Environmental and Crowd Pressure（ホームスタジアムでの勝率と環境および観客数との相関）”のポスターを制作しました。そのポスターが、国際統計リテラシープロジェクト（ISLP）が実施する国際統計ポスターコンテストにて高く評価され、日本代表として初めて一等賞（1st prize）に輝きました（詳しくは『陽菊-ひなぎく-』第2号をご参照ください）。

3名はシェーファーアヴィ幸樹選手との交流や試合観戦を通して、Bリーグのファンの盛り上がりや会場の熱量を肌で感じるなど、貴重な体験をできたとのことでした。さらに、シーホース三河から各種データの提供のお話もあったとのこと、今後は異なる観点からの分析を行いつつ、さらに研究を深めていくようです。

同窓生であるシェーファーアヴィ幸樹選手と10回生の小川さん、山本さん、脇阪さんのこれからの活躍を期待しましょう。



シェーファーアヴィ幸樹選手との記念撮影

© SeaHorses MIKAWA co.,LTD.

学校 NEWS 短信

高木勝久先生が副校長に就任

1回生の尾野佑一郎さんは講師に

山崎前副校長の離任に伴い、令和4年4月より高木勝久先生が新たに母校の副校長に就任しました。高木先生には本紙（p.6）にご寄稿いただきましたので、ぜひご覧ください。

また、中等1回生の尾野佑一郎さんが、音楽の講師として母校に着任しました。卒業生が母校で教鞭を執るのは初めてです。尾野先生は週に1度、4年生の選択音楽の授業を担当されます。次号の『陽菊-ひなぎく-』にて特集する予定ですので、お楽しみに。

高木優先生がEテレ高校講座にご出演

社会科の高木優先生が、4月27日に放送されたNHKのEテレ高校講座の地理総合「第2回 地図や地理情報システムと現代世界 GISって何？～GISと地図～」に解説委員としてご出演されました。下記URLにて、高木先生の出演の様子をご覧ください。

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/chirisougu/archive/chapter002.html>

神戸大学 day が開催される

5月26日（木）、コロナ禍以前は毎年恒例だった神戸大学 day が3年ぶりに対面で開催されました。13名の先生方が来校し、4、5年生を対象に各学部の概要や特徴等を講義されました。

■卒業生だより

山泉 琴音さん [中等2回生]

2回生の山泉琴音です。卒業生のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。この度はこのような同窓会紙に投稿させていただく機会を頂いたこと、恐縮ながらも大変光栄に思っております。

私事ではありますが、3月に栃木県の大学を卒業し、現在は丹波で研修医として働いています。医師のスタートラインに立って3ヶ月がたちました。附属の先生方の多大なサポートのもと、医学部になんとか滑り込み、ようやく医師としてスタートラインに立てた感動は忙しい日々でも薄れることはありません。丹波に住むのは初めてですが、きれいな空気と豊かな緑、100歳超え方々の笑顔に元気をもらう毎日です。

私は今、救急科で研修させていただいています。夜間業務（当直）もさせていただいています。イメージしていただくならドクターヘリにはのっていませんが、ドラマのコードブルーの世界です。救急外来には患者さんが様々な訴えで運ばれてきます。「なんとなくしんどい」「ふいふいする」などです。心臓の病気の方が、胸の症状を訴えないことも多々あります。実臨床は教科書通りにはいかないことばかりです。症状から頭の中に描いた診断フローチャートと大きく違って、なかなか診断にたどり着けないことも多いです。そんな時に、頭をリセットしてもう一度患者さんの話を聞く（問診といいます）、本人から聞けない場合は、家族など一緒に来院した人に話をききます。そうすると軌道修正されて診断にたどりつけることがあります。まだ医師免許を得て3ヶ月なので、全任させてもらえる手技は限られていますが、自分のとった問診が診断への鍵となり、早期に治療を開始して患者さんを救えた時は本当に嬉しかったです。人の命を救う上で、知識よりも何よりも大切なのは、コミュニケーション力、柔軟性、情報を周りに伝える力だと痛感する日々です。附属で磨いて頂いた力に今一番支えられている気がします。

医療の世界は広いように見えますが、奥深い分非常に狭いです。附属時代の仲間は幅広い分野で活躍していて、久々に会って話すと視野が広がります。いろんな世界に興味を持ち続けることで、引き出しが増えてコミュニケーションに幅が出ます。医学部が決まって、卒業時に担任の先生から「視野を狭めるな、外とのつながりを必ず持ち続けなさい」と教えていただいた意味がよくわかります。今の自分が附属での学び、つながりに支えていただいていることに感謝しております。最後になりましたが、卒業生の皆さまが各分野で益々活躍されることを祈念し、自分自身も精進してまいります。時節柄、ご自愛専一にご精励ください。

■卒業生だより

車 美晴さん [中等6回生]

こんにちは。6回生の車美晴です。

私は現在、京都女子大学の家政学部食物栄養学科に所属し、管理栄養士になるべく勉学に励んでいます。食物栄養学科では、栄養学、調理学などはもちろん、医学、農学、薬学、経済学、心理学など多様な学問を学びます。



Kotone Yamaizumi
中等2回生。中等時代はコーラス部に所属し、卒業後は医学部に進学。今年2月の国家試験に合格し、現在は丹波で研修医として勤務。



Miharu Kuruma
中等6回生。実行委員長として第6回兔原祭の企画、運営に尽力した。現在は食物栄養学科の3年生。

管理栄養士を目指したきっかけは、昨年度3月をもって離任された永野和美先生との出会いです。住吉小学校時代の給食からお世話になっていたのですが、給食が大好きだった小学生の私は漠然と“あんなに美味しい給食を作れる管理栄養士ってかっこいい！”と憧れを抱きました。以来ずっと管理栄養士になる夢を追いかけています。

そんな給食ですが、昨年度で無くなってしまいましたね。給食に思い入れのある一栄養学生としてそれを聞いたときはとても残念でしたが、給食の思い出は私の胸の中に残り続けています。

大学生活はとても充実しています。勉強、アルバイトはもちろん、ボランティア、オープンキャンパスアドバイザーなどの活動に参加しています。色々なコミュニティに所属することで出会いが増え、そのたびに自分の視野が広がり、刺激になっています。部活は、中等時代に引き続きバレーボール部に所属しています。少し脱線しますが、中等の女バレにコーチとしてたまに行っているの、在学生の方はもし見かけたら声をかけてください！(笑)

さて、私のことは兔原祭実行委員長を務めていたことで知ってくださっている方も多いかと思いますが、今年度の兔原祭、閉場間際に少しだけですが私も行かせていただきました。実行委員の皆さん本当にお疲れ様でした！お客さんの楽しそうな顔や実行委員の頑張っている姿を見て、当時を思い出しても感慨深くなりました。統率力も人望もなかった当時の私にとって、委員長という役割は責任重大で、自分の思うようにいかず辛いことが沢山あったし、何度も泣きました。しかし当日を無事に終えたときの達成感、私にしか感じることでできない計り知れないものでした。あの経験を経て、リーダーとして、また人として、本当に成長できました。良い経験をさせていただいたな、と改めて感じました。

最後に、こうして中等の同窓会紙の寄稿者として名を出していただけたことを光栄に思います。書く内容を考えると、中等時代の思い出がよみがえってきてとても懐かしい気持ちになりました。拙い文章でしたが、長々と読んでいただきありがとうございました。

～同窓会からのお知らせ～

■ **24卒就活生応援企画**: 24卒就活生向けに、社会人・内定者の卒業生に就職活動に関する話を聞くことのできる、オンラインのOBOG訪問を実施中です。ブログ形式での就活体験記を配信したりZoomでの座談会を開催するほか、ES添削の依頼等も受け付けています。ご興味のある方は、6回生は横田涼、他の学年は学年幹事までご連絡ください。

・ブログ形式の就活体験談 ・Zoom座談会



■ **本広報紙のバックナンバー**: 母校のHPにて、本広報紙のバックナンバーを掲載していただいています。ぜひご覧ください。

<https://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/current/alumni/association/>

■ **本広報紙に関するお問い合わせ**: 「あの先生/先輩の話を聴きたい」、「こんなトピックを取り上げて欲しい」などの要望や、本号を読んだ感想を右記のフォームにて受け付けます。どしどしご投稿ください。

お問い合わせフォーム

■ **同窓会の活動に関して**



<https://forms.gle/JyN9kAfL5IEN4boi7>

■ **広報紙に関して**



<https://forms.gle/P9RyVcpmkeqy4ALDy5>

高木 勝久先生



Katsuhisa Takagi

2012年4月に本校に着任、数学を担当。主幹教諭等を歴任後、今年4月に副校長に就任。

同窓生のみなさま、こんにちは。ご無沙汰しておりますがいかがお過ごしでしょうか。

本校では5月20日と21日に、2日間開催・一般客入場の兔原祭を3年ぶりに実施しました。近年は感染症拡大の影響を受け、三大祭と宿泊行事をすべて中止した年度がありました。当時の在校生のみなさまに理不尽な思いをさせたことは慙愧に堪えません。しかし本年度の兔原祭はみなさまが有形無形に遺されたDNAが在校生たちに確実に引き継がれ進化していることが立証されたものでした。在校生たちは今までの軌跡を受け継ぎ次代につなぐという意識で兔原祭を作りこんでいました。みなさまにもご覧いただきたかったです。一方、同窓生の年長組は20代半ばに差し掛かり、各業社のスタッフや本校企画の講演会のスピーカーとして本校を訪問される場面が増えてきました。久しぶりの再会で立派な姿を拝見するにつけ感慨を深くしています。みなさまの力をお借りしてなにかおもしろいことができなかつたらいいところですが、創立十余年、若輩の本校にも歴史が積み重なってきました。

かつて二言目には語られたセリフ「今は過渡期だから」を耳にする機会が今やほぼなくなりました。私が副校長を拝命したように本校の変容は続いています。その質は第2ステージに入っています。その象徴の一つがKobeポート・インテリジェンス・プロジェクトの充実です。略称「KP」が定着して久しくなりましたし、一度は撤退した複数学年混成ゼミが現在は3456KPとして機能しています。生徒全員が個々でオリジナルな研究を行い、その成果で各種の賞に浴する等の成功の体験だけでなく悔しい思いをしたり情けなくなったり「失敗や不完全燃焼の体験」も安全にできる場にKPが成長してきたことが、実は素晴らしいことだと考えています。

とはいえ、DNAのおかげで創立以来不変の空気も通奏低音として流れています。本校が大切にすべき「不易と流行」を見極めながら、日々の学校運営や生徒とのかかわりを愉しんでいきたいと思っています。

同窓生のみなさま。便りの無いのは良い便りと言いますし、移動や面会がためられる日々ですが、是非近況を知らせていただき、本校の現状もお知りいただければ嬉しいです。本校のことがみなさまの誇りとなっておれば幸甚です。多くの本校関係者にとって本校がそうなるように尽力する所存です。

みなさまの御健康と御活躍を引き続き祈念しています。

【編集後記】

また今年も暑くなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

この広報紙も発行し始めてから早1年ということになりました。3ヶ月毎に発行してきましたが、たまに母校のことを思い出す機会として少しずつ定着していれば幸いです。今回も卒業生、現役生並びに先生から素敵な文章をいただくとともに、シーホース三河様から素敵なお写真をご提供いただき、本紙が出来上がりました。この場を借りて御礼申し上げます。

次に本紙が発行される時もまだ暑いかと思いますが、楽しい夏をお過ごしください。(1回生金端)

(次号は9月30日発行予定です。)